

家庭教育力の強化を図ろう

「情報モラルについて家族で考えよう」

岡崎市立竜海中学校父母と教師の会

1 学区及び学校の概要

岡崎市立竜海中学校は市のほぼ中心部にあり、六名小、三島小、竜美丘小の3つの小学校区が学区となります。1年生8クラス、2年生8クラス、3年生9クラス、特別支援学級4クラスで構成され、全校生徒922人で、岡崎市内では一番大きな中学校です。

2 研究のねらい

スマートフォンの普及や、ゲーム機でもインターネットに接続できる機会がある現在に、中学生でも簡単にインターネットに接続し、LINEやTwitterなどのSNSを用いる機会が増えてきています。一方で、親や教師の知らないところで子供が犯罪に巻き込まれたり、いじめが行われているなどのトラブルも見聞きします。そのような状況の中、「インターネットについて、親子で話し合う機会をもってもらいたい」という願いから、この研究をスタートさせました。

3 研究の実践

(1) アンケートの実施

4月の授業参観日に保護者に向けて、また子供達には5月の大型連休前に、それぞれ情報モラルについてのアンケートを実施しました。

① 生徒へのアンケート結果

- ・自宅に自分が自由に使えるインターネット接続機器がありますか？
【ある→1年生…95% 2年生…94% 3年生…97%】
- ・SNS（LINE・Twitter等）を利用していますか？
【利用している→1年生…42% 2年生…50% 3年生…56%】
- ・SNS（LINE・Twitter等）で会ったことのない人とやりとりをすることがありますか？
【ある→1年生…12% 2年生…24% 3年生…25%】
- ・SNSのなかでいじめや喧嘩などを見聞きしたことがありますか？
【ある→1年生…13% 2年生…19% 3年生…27%】

② 保護者へのアンケート結果

- ・お子様にインターネットを利用させる際、保護者の目の届かない場合でも親子で話し合っ
てルールを決めていますか？
【はい…63% いいえ…24% 使用させていない…13%】
- ・音楽プレーヤー（iPod、Walkman等）携帯ゲーム機（3DS、PSvita等）でもスマートフォン
と同じようなサービスやアプリを利用できるものがあることをご存知ですか？
【はい…94% いいえ…6%】
- ・お子様が自由に使用できるインターネット接続機器で危険なサイトに行かないよう守る
フィルタリングサービスがあることをご存知ですか？

【知っている設定済み…60% 知っているが未設定…39% 知らない、無回答…1%】

- ・アプリなど（ゲームの攻略やチート等）の中に、違法性のあるものがあることをご存知ですか？

【はい…80% いいえ…20%】

（２）警察署の方による講演会の実施

夏休み直前の7月19日に、岡崎警察署生活安全課の方による講演会を実施しました。市内の小中学生が、インターネット関連で巻き込まれた実例なども交え、インターネットと上手に向き合う方法についてお話していただきました。後述するモラルクイズと共に講演会の感想を求めたところ、身近に起きた事件に衝撃を受けたという意見や、安易なSNSの書き込みに注意したいという意見が多くあり、今後、成果が期待できるものになりました。



（３）モラルクイズの実施

上記講演会の直後に、今までの活動がどれだけ理解してもらえたのかについて、クイズを出題しました。

- ・「とても綺麗なイラストを見つけたので、保存して、Twitterで誰が描いたのかを明記しないでイラストをアップロードする。」

【○…10% ×…90%】

- ・「面白い格好をしていると思った知らない人を撮影して、そのままSNSに投稿する。」

【○…1% ×…99%】

- ・「会ったことはないが、SNSで話が合う同じ年だという人に、行こうと思っていたイベントと一緒に誘われたので、待ち合わせをして一緒に行くことにした。」

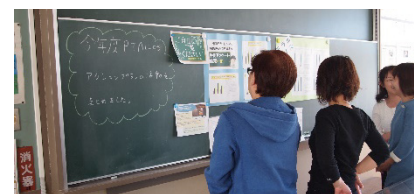
【○…3% ×…97%】

- ・「好きなアーティストのアルバムを友達が持っていたので、ファイル共有サービスにアップロードしてもらったものをダウンロードした。」

【○…14% ×…86%】

（４）情報モラルについての啓発活動

1学期の保護者会時に、4月のアンケート結果と、情報モラルについての冊子を配布しました。また、10月文化祭の時には、保護者の休憩スペースにアンケート結果や、モラルクイズの結果等を掲示し、講演会の感想なども自由に見てもらえるようにしました。



さらに、1月には学級委員のお母さんを対象に、スマホ教室を開催する予定です。

4 まとめ、及び今後の課題

今回のアンケート結果を見ると、3割近くの子供達が親との約束やフィルタリングなどの対策もないままSNS等を使っていることが分かりました。今後、この数字ができるだけ0に近づくよう、折に触れて啓発活動を続けようと考えています。

